

実態調査の結果を踏まえた課題の整理

1 ビル関係者及び行政庁舎関係者への調査結果を踏まえた課題の整理

番号	課題の概要	東日本大震災等を踏まえた設備増強時の課題の件数	今後の設備増強時の課題の件数	検討の必要性	備考
1	「屋上に設ける非常用電源設備は、囲いの周囲に 3 m の空地を保有することが困難	1 / 31	0 / 15	—	設備の増強件数と比較して、課題となった件数が少なく、検討の必要性は低いと考えられる。個々の課題の解決に向け、施設関係者と管轄消防本部の間で調整することが望ましい。
2	「屋内に設ける燃料タンク（屋内タンク貯蔵所）の貯蔵量に制限があること（指定数量の 40 倍以下又は 2 万 L 以下とすること）」に適合させることが困難	1 / 31	1 / 15	—	設備の増強件数と比較して、課題となった件数が少なく、検討の必要性は低いと考えられる。個々の課題の解決に向け、施設関係者と管轄消防本部の間で調整することが望ましい。

検討の必要性の凡例

○：検討が必要と考えられる

—：現時点で検討の必要性は低い

2 消防機関を対象とした調査結果を踏まえた課題の整理

番号	指導の実態	検討の 必要性	備考
1	非常用電源設備の1日あたりの燃料消費量は、当該設備の稼働想定時間をもとに算出している例が多かった。	—	ビル関係者及び行政庁舎関係者の調査において、当該算出方法について特段の意見がなかったことから、それぞれの実態に応じた適切な算出方法となっていると考える。
2	屋上にキュービクル式の非常用電源設備を設置する場合の指導方法に差異が有 ・採光、照明 ・囲い ・適当な傾斜及び貯留設備 ・油分離装置 ・換気設備及び排出設備に設ける防火ダンパー ・避雷設備 ・消火設備 ・キュービクル式の設備の中に設けるタンクの取扱い ・グレーチング状の構造物の上への設置	○	防火ダンパーの設置について、危険物の規制に関する規則の基準どおりに設置した場合、非常時に使用できない等の課題が確認されたことから、実態を調査したうえで、検討を行う必要があると考えられる。 また、グレーチング状の構造物の上への設置事例が多くみられ、その指導方法について、消防本部で苦慮しているという声があることから、実態を調査する必要があると考える。 なお、その他の基準については、ビル関係者及び行政庁舎関係者の調査において、当該指導方法について特段の意見がなかったことから、それぞれの実態に応じた適切な指導方法となっていると考える。
3	非常用電源設備における1日あたりの危険物の消費量に制限があるが、それを超える消費量が見込まれる場合の指導方法に差異が有	—	ビル関係者及び行政庁舎関係者の調査において、当該指導方法について特段の意見がなかったことから、それぞれの実態に応じた適切な指導方法となっていると考える。
4	配管の地震対策に係る指導方法に差異が有	—	ビル関係者及び行政庁舎関係者の調査において、当該指導方法について特段の意見がなかったことから、それぞれの実態に応じた適切な指導方法となっていると考える。
5	屋上に設置する非常用電源設備の保有空地の取り方で指導に苦慮（グレーチング構造物による段差やダクト等が多いため、平滑な保有空地を確保することが困難）	△	複数の消防本部（5本部）から意見が出されており、実態を調査する必要があると考えられる。

検討の必要性の凡例

- ：検討が必要と考えられる課題あり
- △：検討が必要な課題か否か確認が必要
- ：現時点で検討の必要性は低い